

日本原子力学会 2011 年秋の大会  
保健物理・環境科学部会全体会議議事

日時：2011 年 9 月 21 日(水) 12 時～13 時

場所：K 会場 西日本総合展示場 AIM-311・312 会議室（北九州国際会議場）

議 事 次 第

進行：横山委員

- |                           |        |        |
|---------------------------|--------|--------|
| 1. 部会長挨拶                  |        | 山澤副部会長 |
| 2. 部会表彰について               | (資料 1) | 山澤副部会長 |
| 3. 放射線影響分科会の活動について        | (資料 2) | 山澤副部会長 |
| 4. 部会企画について               |        | 高橋委員   |
| 5. 2010 年秋の大会以降の部会企画等について |        | 高橋委員   |
| 6. 部会主催・共催シンポジウム等         |        | 飯本委員   |
| 7. ポジションステートメントについて       |        | 横山委員   |
| 8. 委員会等報告                 | (資料 3) | 各担当委員  |
| 9. その他                    |        |        |
| 10. 閉会挨拶                  |        | 服部副部会長 |

以上

2011.09.21

部会全体集会資料

## 提案事項

下記の表彰に関する部会内規第 3 条に第 4 項を追加する。

## 提案理由

本内規では、部会が共催するシンポジウム、夏の学校等の行事で主催者が企画する表彰において部会名を冠した表彰が行えず、他の共催団体等に所属する者が表彰される可能性があることに比べて本部会員は不利な状況である。

共催行事においても表彰できることとするのは、第 2 条の精神に沿ったものである。

内規 xx

## 日本原子力学会保健物理・環境科学部会表彰に関する内規

平成 22 年 10 月 1 日 第 1 回表彰・推薦委員会制定

## (目的)

第1条 本内規は、「規程 37 日本原子力学会 部会・支部表彰制度規程」第 2 条に基づき、当部会の表彰の種類、数、要件および選考方法を定めるものである。

## (趣旨)

第2条 一般部会員による優秀な研究発表、継続的な発表等の部会に寄与する発表、学生・若手による将来性のある研究発表を表彰し、保健物理・環境科学分野の発展を促すことを趣旨とする。

## (表彰の種類、数、要件)

第3条 表彰の種類、数及びその要件は以下のとおりとする。

## (1) 論文賞 若干名

部会員の投稿論文で、保健物理・環境科学分野において完結し優れた成果を含むもの。ただし、学会本体の賞（論文賞、技術賞等）に該当するものはそれを優先し、重複して表彰しない。

## (2) 学術貢献賞 若干名

部会員あるいは部会員を主要構成員とするグループ等の業績で、長年にわたり継続して学会で成果を発表するなど、部会の研究領域に対して学術あるいは技術面で貢献したものの。

## (3) 講演賞 若干名

部会員による学会発表で、発表内容および発表技術が優れているもの。

## (4) 新人賞 若干名

部会に属する修士課程までの学生による学会発表で、研究の発展性があり将来性が高いもの。

2. 同一の業績に対しては、何れか一つの賞を授賞するものとする。
3. 論文賞、学術貢献賞および新人賞については過去3年間、講演賞については過去1年間の業績を対象とする。ただし、表彰選考小委員会で特別な事由があると認められた場合は、それ以前の業績を対象とすることができる。
4. 第1項の種類他に、部会が共催する研究集会等における研究発表で内容および発表技術が優れたものについて、第2条の趣旨に合致する場合は部会賞に準じるものとして表彰できるものとする。この場合、賞の名称、数、要件および選考方法について予め表彰選考小委員会で承認を得るものとし、第4条の適用を除外することができる。

(表彰時期)

第4条 毎年秋の大会において賞状授与等により表彰することとする。ただし、秋の大会において表彰が行えなかった場合は、翌年の春の年会で表彰することができる。

(表彰選考小委員会)

第5条 表彰対象者(団体)の選考は表彰選考小委員会が行い、運営小委員会に諮り決定する。

2. 表彰選考小委員会は、部会長、副部会長1名、企画主幹事、学会プログラム委員(責任委員1名)、編集委員(責任委員1名)、総務主担当、および必要に応じて部会長が指名する運営委員若干名により構成する。
3. 表彰選考小委員会に委員長を置き、部会長が兼ねる。委員長は選考事務を司る。
4. 表彰選考小委員会に委員長の指名により幹事を置くことができる。
5. 選考小委員会の構成員の任期は運営委員の任期と同じとする。
6. 選考の方法および表彰の方法の詳細については、「部会賞選考方法に関する覚書」として表彰小委員会が決定する。

(選考における配慮事項)

第6条 表彰の趣旨に鑑み、各賞の選考に当たっては、部会の将来を担う若手および学生に配慮する。

(改定)

第7条 本内規の改定は、部会運営小委員会の発議に基づき、部会全体会議での審議を経た後、表彰・推薦委員会での承認を要する。

日本原子力学会「原子力安全」調査専門委員会  
放射線影響分科会の活動報告

占部逸正

1. 設置目的

福島原子力発電所の事故に関連して環境影響、放射線防護の観点からの評価、提言

2. 構成部会

保健物理・環境科学部会、放射線工学部会、社会環境部会

3. 構成委員

占部(福山大)、服部(電中研)、山澤(名大)横山(藤田保健大)、高橋(知)(京大)、百瀬(JAEA)、飯本(東大)、井口(名大)、平山(KEK)、高橋(浩)(東大)、上松(東芝)、佐波(KEK)、岩井(原技協)、諸葛(東大)、三島(大林組)、稲村(電中研)、澤田(三菱重)

4. 活動の経緯

(1) 準備会および第1回分科会(4月30日)

分科会活動の目的

- ・環境および周辺住民と災害対応に当たる防災関係者の被ばくの低減を合理的に達成することに寄与すること
- ・長期的な視野から、引き続き対応すべき諸課題の検討に寄与し得る客観的な放射線学的情報を整備しておくこと
- ・原子力災害の特殊性を考慮し、得られた情報を分かりやすい形で国内および世界に発信すること

議題としては、当面の取り組むべき課題、線量率分布図作成の中間報告、大気拡散状況の把握、緊急提言の検討、回復措置の考え方、関連学会との連携などについて議論した。

(2) 第2回分科会(5月12日)

放射線影響分科会としての提言について、原子力シンポジウムでの報告内容、環境回復措置に必要な安全規則等について議論した。

(3) 第3回分科会(6月11日)

緊急シンポジウム以降に学会に寄せられた質問への対応状況、住民や作業員の被ばく管理状況と課題、緊急時環境放射線モニタリングの課題、クリーンアップ分科会より福島地区訪問結果と要請、遅れて公表された環境関係のデータに対する対応、放射線の線量基準運用などについて議論した。

(4) 第4回分科会(7月2日)

海洋拡散に関する現状と課題、放射線測定の問題点と留意事項、HPに記載されている解説記事の見直し、分科会の今後の活動について議論した。

(5) 第5回分科会(8月9日)

HP掲載解説記事の改定、わら汚染と関連して放射性物質の広域拡散について、今後開催されるシンポジウムについて、緊急時対応のあり方としての教訓について、放射線測定関連の解説について議論した。

平成 23 年 9 月 20 日

## 編集委員会の状況について

編集委員担当 森泉 純

## 1. 部会編集委員担当

森泉 純（名大）、塚田祥文（環境科学技術研）、山西弘城（近大）、横山須美（藤田保健衛生大）

## 2. 学会誌

- ・福島第一原子力発電所事故関連。特別編成「FOCUS 東日本大震災」（5～8月号）  
（5月号）

「福島原子力発電所事故の放射線のレベルについて」「被ばくの仕方と人体への影響」「内部被ばくについて」「遠隔地被ばくについて」「食と住居について」

（6月号）

【時論】 「放射線の健康影響の説明の難しさ」（長瀧重信・長崎大名誉教授）

【解説】 「被曝による健康への影響と放射線防護基準の考え方について」

【学会誌アーカイブ】 「チェルノブイリ事故の医学的影響」（長瀧重信・山下俊一 2002年）  
「チェルノブイリ事故後の環境影響」（杉浦紳之 2002年）

（7月号）

【解説】 「福島第一原発事故の大気を介した環境影響」（山澤弘実・平尾茂一）  
「緊急時環境モニタリングの考え方」（下 道國）

（8月号）

【解説】 「長期的な海洋環境影響は？」（中野政尚・JAEA）

「福島第一原子力発電所の事故に係わる放射線影響分科会の活動報告(I)」

【コラム】 「放射線の人体影響について Q&amp;A」（岩崎民子・NPO 放射線教育フォーラム）

（9月号）

【解説】 「土壌における放射性核種の挙動特性」（内田滋夫・田上恵子・石井伸昌）

（著者敬称略）

他にも執筆依頼中、出稿次第掲載。

## 3. 論文誌

- ・「福島事故関連論文」の査読迅速対応

- ・2011年4月以降の第12分野論文投稿状況

事故関連論文 投稿数 10（英文3 和文7）

うち、掲載否1（ただし、改めて投稿された）、分野変更1、審査中1

通常論文 投稿数1（英文1）うち審査中1

- ・区分名称の修正について意見募集

現在の論文審査用区分表に移行して6年経過。区分表の専門分野(Subject Classification)

の和英名称を見直し（修正、追加、削除等）。意見募集。意見提出は9月末まで。

- ・英文誌の学術雑誌出版社テイラー&フランシスによる共同出版の方向で決定。無料公開の対象範囲などについて調整中。

（メリット） 投稿、査読電子システムの提供。出版論文全てに英文校閲が付く。

投稿料低減による投稿数の増加が期待される（特に海外から）。

（デメリット） 学会員以外への電子ジャーナル無料公開の停止

- ・従来の Supplement に替わる国際会議 Proceedings 集 *Progress in Nuclear Science and Technology* 発刊開始
- ・投稿規定変更 速報、Rapid Communication にも英文抄録をつけるように変更された。
- ・和文誌の J-Stage 掲載完了

#### 4. 学会賞「論文賞」受賞報告と推薦

- ・第12分野（保健物理と環境科学）よりH22年度受賞

S. Hirao and H. Yamazawa, Release Rate Estimation of Radioactive Noble Gases in the Criticality Accident at Tokai-Mura from Off-Site Monitoring Data. Vol. 47, No.1, 20-30 (2010).

- ・H23 年度推薦手続き進行中。また、今年度より受賞対象の会員資格が撤廃。

#### 5. 一般社団法人化に伴う規程類改訂・整備 規程～内規レベルまで完了

以上